令和 6 年度実施状況調査報告書（スポーツ振興くじ助成）

■活動概要

助成団体	公益社団法人日本プロサッカーリーグ
事業細目名	下部リーグ開催事業
事業名	Ｊユースカップ
助成金額	43,900,000 円

令和 6 年度将来性を有する競技者の発掘及び育成活動助成（下部リーグ開催事業）で公益社団法人日本プロサッカーリーグが行っている「Ｊユースカップ」の実施状況について調査を行いました。当該大会は今年第 30 回を数え、主に 15 歳から 17 歳の選手を対象としたＪクラブアカデミー60 チームにタウンクラブ 4 チームを加えた合計 64 チームが参加する大会です。本事業は令和 6 年度に実施する全 167 試合の審判費や遠征費等に対して助成を行っているものです。

■助成の意義

参加クラブの中には、自費のみでの出場が困難な財政状況のクラブもあり、本助成なしでは大会規模の縮小も危惧されていましたが、本助成を活用することにより、参加クラブの負担を軽減し、安定的に大会を開催することができたそうです。

選手の育成は、公式試合から抽出した課題の分析とトレーニングを繰り返すことによって行われるものと考えられており、Ｊユースカップの開催は選手の育成・成長の機会を創出することが大きな目的となっているようです。また、リーグ戦環境の乏しい 15 歳から 17 歳の選手を主に対象としているため、実力を発揮できずに埋もれてしまう選手の発掘の場にもなっているとのことでした。現在では、出場経験者から多くの日本代表選手が輩出され、30 年に渡る取り組みの成果が表れています。

■事業効果を高めるための取り組み

第 30 回の開催となる今年は、コロナ禍における中止及び縮小開催を経て 5 年ぶりにノックアウト方式の決勝トーナメントを実施することになり、決勝戦へ勝ち進んだ 2 チームは年末の「インターナショナルユースカップ」への出場権を獲得できることから、選手のモチベーションアップにもつながっているとのことです。決勝トーナメントでは、日本代表チームのスタッフの視察が予定され、調査当日には近隣のクラブや海外チームの視察もありました。

このように、大会の位置づけや視察の受入など、公益財団法人日本サッカー協会との連携の下、次世代を担う選手のさらなる可能性を広げる場となるよう取り組んでいるとのことでした。

■所感

調査当日は、地域リーグを勝ち上がったクラブ同士の準決勝とあって、２試合ともに実力がきっ抗し PK 戦にもつれ込む試合もありました。応援団にも力が入り、緊張感のある試合が行われていました。個々の成長度合いに適した試合環境を各年代で整備し、公益財団法人日本サッカー

協会とも連携することが、現在の日本サッカーの活躍につながっているのだと感じました。今後も選手の成長の場となり、世界で活躍する選手が数多く育成されることを期待しています。

（令和６年 11 月９日往査）

（写真）Ｊユースカップ準決勝の様子	
	